

日本品質の整備技術をタンザニアへ 刈谷市の自動車販売・コムプリスカンパニーと JICA が連携

国際協力機構（JICA）は、3月13日、愛知県刈谷市の株式会社コムプリスカンパニー（末光 宣夫 代表取締役）による、タンザニア国「良質な車の輸入／査定／整備技術の移転による渋滞解消のための案件化調査」を「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として採択しました。



タンザニアでは、近年の急速な経済成長とともに中心都市・ダルエスサラームを走る自動車が急増し、その95%は日本車と言われており大部分は中古車です。ところが輸入時の査定が不十分であるため整備不良の中古車が多く、また一定の水準の中古車が輸入されても整備工場や整備士の不足から、走行中に故障する自動車が多く、それらの故障車が交通の妨げとなり渋滞の一因ともなっています。

上記の課題を解決するために、本調査に採択された(株)コムプリスカンパニーは、中古車査定や整備技術の移転を図ることを目的に、現地職業訓練学校に対して自動車査定士・整備士養成コースの設定および査定・整備工場開業を想定したビジネスモデルを検討する調査を実施します。調査はこれまでも共同事業を展開している三重県のMKオートサービスやタンザニアの津梁貿易とも協働しながら実施されます。(株)コムプリスカンパニーは、愛知、三重で自動車販売・整備を手掛けており、これまでUAEやパキスタンでも整備技術指導に携わった経験があり、その知見が活かされることが期待されます。

この調査は我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は「途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的」としたもので、2012年度から実施されており2014年度第2回目は昨年11月に公示を行いました。129件の応募のうち25件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから順次調査を実施します。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部国際センター 市民参加協力課 三輪田、前島
TEL 052-533-1387 e-mail : jicacbic-psp@jica.go.jp